



News Letter

No. 84

The Iida City Institute
of Historical Research

2016年10月1日 発行

飯田市歴史研究所

〒395-0002

長野県飯田市上郷飯沼3145

TEL 0265-53-4670

FAX 0265-21-1173

E-mail iihr@city.iida.nagano.jp



第14回飯田市地域史研究集会を開催しました

8月27日（土）・28日（日）に、第14回飯田市地域史研究集会を開催しました。1日目の来場者は約130名、2日目は71名と、市内はもとより市外や県外を含めた皆様にご参加いただきました。飯田・下伊那地域について考える上で、飯田藩と地域社会との関係は大変重要なテーマであり、今後とも様々な視角からこの問題について研究を進めていきたいと考えています。

特集 飯田藩と地域社会

今回の地域史研究集会では、近世に飯田・下伊那のうち2万石を支配した飯田藩と地域社会との関わりについて、藩政の展開に加え、文化・学問という側面を重視しながら、これを明らかにすることを試みました。

本研究集会では、講演・報告に先立って、黒田人形保存会の皆様による三番叟の上演を行いました。その後、基調講演として東京大学名誉教授の藤田覚氏から、「幕府権力と地域—武藏多摩郡八王子地域を素材にして—」と題し、幕府権力（公儀）による支配の在り方を地域における利害調整という側面から検討するご講演をいただきました。

午後には飯田市歴史研究所の千葉拓真研究員が「近世後期の飯田藩政—その展開と課題—」と題した報告を行い、江戸幕府の側用人や老中格まで昇進した10代藩主堀親喜とその子 堀親義の時代における飯田藩政の動向と、そこから見える政治課題等について検討しました。前飯田市立中央図書館長の加藤みゆき氏からは、「堀家旧蔵古書を中心とした飯田文庫の蔵書について」と題して、飯田市立中央図書館の前身である飯田文庫に堀家の蔵書などが収蔵された経緯や、現在中央図書館が所蔵する堀家の旧蔵古書をはじめとした書籍の紹介をしていただきました。そして東京大学の竹ノ内雅人氏に「近世における飯田の学問と文化」と題し、飯田における和歌や国学、寺子屋での学習の様相や、それらを通じた武士や百姓・町人の文化的なネットワークについて検討していただきました。

これらの講演・報告に基づいて、横浜国立大学教授で歴史研究所調査研究員の多和田雅保氏の司会により、パネルディスカッションを行い、その後、会場とのあいだでも活発な議論が行われ、飯田藩と地域社会との関係性や文化の多様性、飯田・下伊那地域の特性にまで議論が及びました。



水路と歴史をめぐる飯田町さんぽ



三番叟上演 黒田人形保存会

講演「幕府権力と地域—武藏多摩郡八王子地域を素材にして—」
東京大学名誉教授 藤田 覚氏

ディスカッションの様子

会場の廊下では、「飯田・上飯田の水路と歴史—近世の御用水から現代の裏界線まで—」として、近世から現代までの飯田の水路に関する史資料や市民団体「いいださんぽ会」の活動などについてパネル展示を行いました。この内容は、これまでの飯田市歴史研究所やいいださんぽ会による活動の成果を反映したものです。

2日目には4本の報告を行いました。座光寺地区における「歴史に学び地域をたずねる会」の活動報告や、飯田・下伊那地域における結婚および結婚式の形態の変化について、アンケート調査をもとに研究した報告、そして近世の座光寺村を中心とした山論に関する報告、満蒙開拓青少年義勇軍の創設に関する報告が行われ、いずれも深い洞察と精緻な分析に基づく研究報告でした。以上2日間の成果は、今後の執筆と編集を経て、来年刊行される年報にまとめられる予定です。

飯田・下伊那の歴史と景観 その3

山里の景観 飯田市下栗



標高800～1000mの尾根伝いに形成された集落

遠山谷は、近世より都市部に向けてヒノキ等の木材を供給してきました。また近代には、製材業者が山に入り、パルプ用の木材伐採がさかんに行われ、下栗集落の谷下まで森林鉄道が伸びていました。戦後、国内の木材需要が減少し、昭和四〇年代には森林鉄道は廃線となりましたが、下栗集落の人々は、急峻な地形の中での暮らしを維持するため多様な木材を活用してきました。

中でもヨセと呼ばれる土留め、雑穀をかけるハザ、狭い庭を広げ冬場に吹き上げられる谷底から寒風を遮るヤライ、家屋の裏手に掛けて、崩れて来る土砂を防ぐネコビサシ、トントン葺きの屋根板、これらは周辺の山から毎年供給されるクリ材により、数年から数十年の単位で徐々に作り替えられてきました。近年、こうした木製のハザやヤライは珍しくなってきましたが、冬が近づくと薪が拾い集められ、なかでも12月には霜月祭りのために雑木をフジ蔓で巻いた薪が家々の戸口に並べられ、木材資源を有効に活用する山の暮らしが、集落景観に現れます。



ハザが並ぶ1970年代の集落の風景
（『フィールドへ』No.4 野外活動研究会発行1977年）



ヤライの残る家

飯田歴研賞2016 受賞者コメント

著作賞



原 安治 著書
『還らざる夏 二つの村の戦争と戦後
信州阿智村・平塚』
(幻書房、2015年12月)

この度は、思いもかけず「歴研賞」を頂き、まことに有難うございました。拙著『還らざる夏』～二つの村の戦争と戦後～信州阿智村・平塚は、国家の愚策によって無辜(むこ)の民がどのような辛酸をなめたかを「そのようなことはなかった…」と逃げることのできない数々の「動かぬ証拠」によって明らかにしようとしたものでした。

25歳の時、初めて阿智村を訪れて50年、ジャーナリスト人生の過半を飯伊地方の取材に捧げた老兵にとってこの上ない喜びであり、また名誉に存じます。

これからも戦争の片鱗を経験した最後の世代として、語るべきは語り、遺すべきは残さなければならぬ、と改めて決意した次第です。

特別賞

三輪 泰史 著
「菊池謙一・幸子夫妻の
戦時下往復書簡」
(大阪教育大学歴史学研究室『歴史研究』53)



このたびは飯田歴研賞をさすかり、たいへん光栄に存じます。

菊池謙一は戦後の長野県を代表する社会運動家、共産党の政治家といえましょう。本書はその菊池が単身東京にのこった太平洋戦争末期、ひと足先に下伊那郡鼎村(現飯田市)の実家に疎開していた妻・幸子と、およそ一年間にわたって交わした往復書簡を翻刻したもので、戦争のため遠く離れて暮らすことを余儀なくされた夫婦間の手紙だけに、お互いの日々の暮らしや時どきの思いが詳細につづられていて、これを読む人はまるで自らが空襲警報下の東京に、あるいは銃後の下伊那にタイムスリップしたかと思えるほど、時代の様相を詳しく知ることができます。たいへん貴重な史料であり、今回の受賞を機に、飯田・下伊那の方々がすこしでも多く、本書を手にとってくださいと期待する次第です。



学生の「疑問」から地域史は構成できるか?

大串 潤児 (歴史研究所顧問研究員・信州大学人文学部准教授)

大学のゼミではもう10数年にわたって下伊那郡松尾村の史料を読んでいます。1936年創刊の『松尾村報』から、1946年『松尾青年』(松尾村青年会報)、そして現在は『松尾村の新聞』の読解を進め、いま1949年10月にさしかかっています。毎週1回、おおむね4~8頁だての紙面のうち1頁(1紙面分)をゼミ生は担当します。ゼミ生たちが一生懸命調べてもわからない、参考文献も見あたらない、といったテーマは、やっぱり民衆生活に即したテーマが多く、また、飯田下伊那でも研究が進んでいない分野であるように思います。

例えば、満洲移民の記事とならんで多い就職・求職の記事(『松尾村報』)、「やくざ踊り」と称された戦後の素人演芸会(およびこれに対する批判、『松尾青年』)、『村の新聞』にはほぼ毎号のように掲載されている俳句・短歌・川柳・詩などの文芸作品からみる人びとの精神史…。ただ、『松尾村報』と比較すると戦後の『松尾青年』『松尾村の新聞』には女性の投稿も多く、卒論で女性に関するテーマを取り上げる学生が増えたことは興味ある現象です。でも依然として辻村輝雄『戦後信州女性史』(長野県連合婦人会)が基本文献であることはかわりませんが。

ゼミの史料読解はいよいよ1950年代にさしかかります。日本占領の時代は「逆コース」といわれる時代となり、中国革命から朝鮮戦争という東アジアの激動期をむかえます(拙稿「逆コース」初期の村政と民主主義 同時代史学会編『占領とデモクラシーの同時代史』)。東アジアの変動が飯田下伊那にどのような波動としての伝わってくるのか、そして松尾村がどのようにアジアを経験していくこととなるのか、それは戦前のアジア経験とどのように関係しているのか。なかなかわからないのですが、戦後史、そして私たちのアジア認識・歴史認識にとって重要なテーマであることは間違いないでしょう。さて、ゼミ生たちはどんな疑問を提示してくれるのでしょうか?

旧千代支所行政文書の整理・調査

千代村は1964(昭和39)年、龍江村・上久堅村と共に飯田市に合併しました。

明治期から役場は米川地籍にありましたが平成26年1月同じ米川地籍の少し高台の場所へ新築し移動しました。役場資料は旧役場の裏側の建物に残されており、今回まちづくり委員会の会長さんなどの許可を得て整理し目録を取りました。作業は6月21日から8月31日まで、文化庁の「文化遺産を活かした地域活性化事業」の一環として行いました。

文書点数2,957点・内地図73枚・文書箱160箱です。千代村分間地図は大きくて重いため特別な箱を作り入れました。

内容は一番多かったのが戸籍関係で文書箱11箱ですが、明治23年から合併までの村議会記録、明治30年からの庶務関係綴があり村の行政の動きが分かります。また個人の方の寄付に依ったと思われる教科書が、明治末から大

正・昭和にかけての小学校・中学校のものと、千代で行なわれた自由大学で扱った本などを含め97冊あります。戦争に関する文書は少ししかありませんが、千代は満洲国に分村して渡満しましたのでその資料が残されています。戦後帰国者が住むところがなく、再び北海道などへ再開拓に送り出した資料もあり戦後も含め村の人びとの混乱がみられます。これらは千代に残されていた独特なものです。資料の保管場所については検討中です。(調査研究員 齊藤俊江)



整理作業が終了した行政文書



千代支所の蔵の中(整理前)



明治初期に作られた「分間地図」



戦中体験から戦後体験へ

—「焼跡からのデモクラシー」の形成をめぐって—

11月5日 土

第1講 13:30~15:00

ある砥石屋の戦中・戦後体験（横浜市）

第2講 15:20~16:50

中島飛行機女子職員の戦中・戦後体験（浦和市）

11月6日 日

第3講 10:00~11:30

ある小学校男子教員の戦中・戦後体験（飯田市）

第4講 13:00~14:30

ある女学校・中学校女子教員の戦中・戦後体験（飯田市）

この講義では、日本人の戦中体験・戦後（占領期）体験を、主に個人の日記を用いて検討してみようと思います。横浜の砥石屋店主の体験、中島飛行機女子職員の体験、小学校男子教員・中学校女子教員（飯田）の体験を検討し、民主主義・自由・平和などについての民衆意識の特徴の一端を明らかにしたいと思います。

講 師 吉見 義明さん（中央大学商学部教授）

会 場 飯田市役所C棟3階会議室（飯田市大久保町2534）

受講料 500円（2日間共通資料代）

※1日のみ、または1講義のみでもご参加いただけます。受講をご希望の方は歴史研究所までお申し込みください。当日参加も可能です。

歴研ゼミ 10月・11月の予定

受講生募集!!

スタッフとともに歴史を学んでみませんか。

場所：歴史研究所 研修室

近世史ゼミ 担当：千葉 拓真（研究員）

10月4日・18日 / 11月1日・15日（第1・第3火曜日）19:00~20:40

近現代史ゼミ 担当：田中 雅孝（調査研究員）

10月8日・22日 / 11月12日・26日（第2・第4土曜日）10:00~11:40

思想史ワークショップ 市民の皆さんのが自主的に学び合う場

10月5日・19日 / 11月2日・16日（第1・第3水曜日）19:00~20:40

わが町の建築史ゼミ 担当：樋口 貴彦（研究員）

10月20日 / 11月17日（第3木曜日）18:30~20:00

満洲移民研究ゼミ 担当：本島 和人（調査研究員）

第64回 11月5日（第1土曜日）10:00~11:40

※10月は飯田アカデミアのため休講です。

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL: 0265-53-4670

開所時間：午前9時～午後5時 休所日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日～1月3日

「山村の木材利用と景観」

開催日：11月19日 土

報告者：樋口 貴彦（研究員）

時 間：14:00~16:00

場 所：飯田市歴史研究所 研修室

※定例研究会はすべて公開で行っています。

どなたでもご参加いただけます。

地域史講座

18世紀後半の交代寄合信濃衆 —伊豆木小笠原氏の動向を中心に—

江戸時代の中後期、全国各地で飢饉や騒動などが発生する中で、下伊那に知行地を持つ知久氏、小笠原氏、座光寺氏といった交代寄合たち（信濃衆）はどのような動きをしていたのでしょうか。伊豆木の小笠原氏に残された史料から読み解いていきます。

開催日：10月22日 土

時 間：14:00~15:30

講 師：千葉 拓真（研究員）

会 場：三穂自治振興センター2階大会議室
(飯田市伊豆木5451-2)

※参加費等は必要ありません。どなたでもご参加いただけますので、お気軽にお越しください。

飯田・上飯田の歴史シリーズ第2回

地域史講座

飯田城の歴史と「丘の上」の景観

丘の上は、飯田城を中心として形成された城下町でした。

飯田城の歴史と城下町の景観を、城絵図や古文書を使いながら具体的に明らかにしてゆきます。とくに、松本城や高遠城などと比較し、飯田城の歴史的な特徴を検討してゆきます。

開催日：11月21日 土

時 間：18:30~20:00

講 師：吉田 ゆり子

（顧問研究員・東京外国语大学教授）

会 場：飯田市役所C棟3階会議室
(飯田市大久保町2534)

※参加費等は必要ありません。どなたでもご参加いただけますので、お気軽にお越しください。